

ご存知ですか？

～男女共同参画社会づくり副読本～

滋賀県では、子どもたちが性別による固定的な役割分担意識にとらわれず、多様な生き方を描き、互いに尊重し協力し合って社会を築いていく姿勢を育むため、男女共同参画の視点に立った教育を推進しています。

そのための教材として児童生徒向け副読本を各学校に配布し、広く授業などで活用しています。

子どもの発達段階に応じて小学生用、中学生用、高校生用を作成し、毎年対象学年の全生徒数分を私立学校を含む県内の全学校に配布しています。

また、教育現場で活用しやすいように、教員向けに指導のてびきも配布しています。

【今年度の副読本】

小学生用：わたしもあなたも大切に（5年生）

中学生用：家庭科（1年生）、キャリア教育（2年生）、社会科（3年生）

高校生用：進路指導、現代社会、家庭（全学年対象、配布は1年生分）



イラスト：タカノキョウコ

中学生用・高校生用では、最近の授業スタイルを踏まえて、ワークシート形式を採用しています。



現役の教員も含む編集会議で、数年ごとに改訂を行っています。直近では平成30年度に小学生用の改訂を行い、インタビュー動画を新たに追加しました。



株式会社いと 代表取締役
山崎いずみ さん

夢をかなえて生き生きと
仕事をしているみなさんを紹介しています。

小さな会社が集まる「コワーキングスペース」という場所の提供や、食べられるお花の生産・販売をする会社を作りました。自分で会社を作ろうと思ったのは、女性も経済的に自立していくことが必要だと考えたからです。

世の中には、会社に勤める以外にもいろいろな働き方や選択肢があります。男の子、女の子にかかわらず、それぞれが好きなことややりたいことを見つけたら、どうしたらそれをかなえることができるかを考えてみてほしいと思います。

ほかにも、3名の方にインタビューを行っています。

- 滋賀大学教育学部附属幼稚園 教諭 高井謙 さん
- 大津市消防局南消防署 消防士 上田寧々 さん
- バラの生産者 園枝健一 さん

教えて！！

中学生用 男女共同参画教材 活用方法

Vol.1

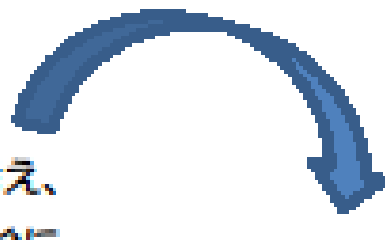
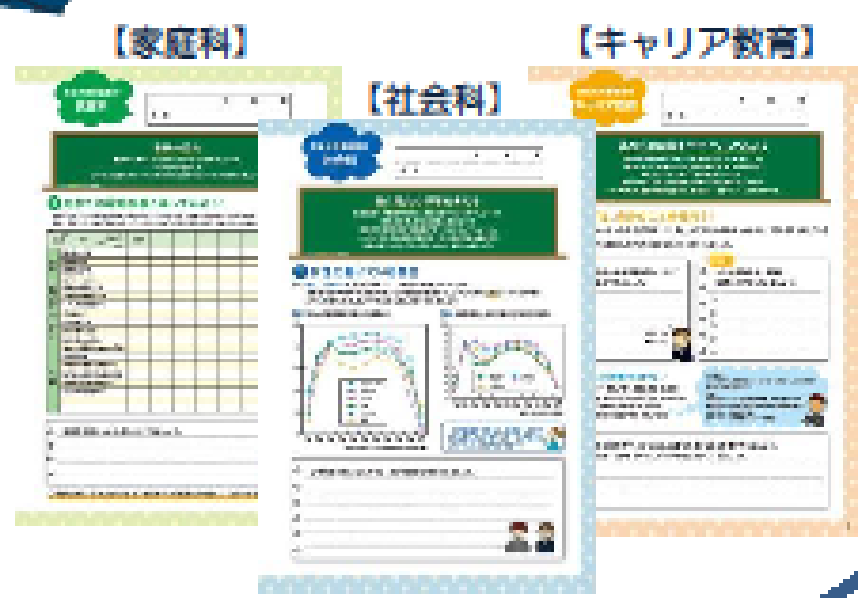
配布ルートの確認



～A先生の活用方法～



これからの社会では、主体的に学び、考え、行動する姿勢が大切だけど、簡単ですぐに役立つ教材はないかな？



ポイント

- ・自分自身の経験やグラフなどをもとにグループで意見を出し合って、最後はクラスで発表！
- ・先輩からのメッセージを読んで、なりたい自分を想像！
- ・一年間の振り返りに最適！



1 あなたの家庭を振り返ってみよう！

自分の経験をもとに、家族の役割や関係性を振り返り、自分自身の役割や責任を再考しよう。

項目	役割	責任	関係性
お母さん	料理・洗濯	家事	愛情
お父さん	収入・家事	経済	責任
お兄さん	勉強・遊び	学習	兄弟
お姉さん	勉強・家事	学習	兄弟

ぜひ、日本では数々の経済危機が
大いに乗り越えられてきました。

もしかして、お母さんの負担ってとても大きい??



自分にできることってなんだろう

自分はこれからどう過ごしていこう?

家庭内で自分はこんな役割を担うようになった!!

〇〇さんはそんなことも家でしてるんだ!!

いろんな価値観があっておもしろい!

卒業後の自立に向けてどうしていこう!!

これからの社会を変えていくのは自分たちなんだ!



自分の将来

男女共同参画教材は、学校・家庭・地域社会のさまざまな場面で、すぐに役立つ教材です。

新たな気づき

多様性

【第2講】

「ジェンダーに配慮したカリキュラムの実践」

講師：奥野 佐矢子さん(神戸女学院大学准教授)

兵庫県出身。広島大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。下関市立大学准教授を経て、現在神戸女学院大学文学部総合文化学科准教授。専門は教育哲学、人間形成論。主要著作論文は『ダイバーシティ時代の教育の原理—多様性と新たなるつながりの地平へ』(共著、学文社、2018年)、『教育的関係の解釈学』(共著、東信堂、2018年)、「ジェンダーに配慮したカリキュラムの動向について—教育現場における展開—」(神戸女学院大学女性学インスティテュート『女性学評論』第30号、2016年)、「“ポスト”フェミニズムと教育学の交叉—『ジェンダー・トラブル』以降のフェミニズムが問いかけるもの—」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第25号、2016年)、『旅する(日常を拓く知5)』(共著、世界思想社、2015年)など。

1. 隠れたカリキュラム(hidden curriculum)

学校などにおいて明示されることなく暗黙の内に伝達される知識や規範のこと。

⇒ 顕在的カリキュラム(学校等が明示し、意図的・計画的に実施するフォーマルなカリキュラム)

▶ 学校教育の3つの次元における「隠れたカリキュラム」(河野銀子ほか『新版 教育社会とジェンダー』学文社、2018)

① マクロ次元: 制度としての学校(教育機会)

制度上の障壁は取り除かれたように見えるものの、進学実態における実質的差異。

高等教育進学率、修士課程・博士課程在籍率、短大・高専における男女比の不均衡、大学における専攻分野、高等学校卒業後に就職した場合の職種(大海篤子『ジェンダーで学ぶ政治社会学入門』世織書房、2010)

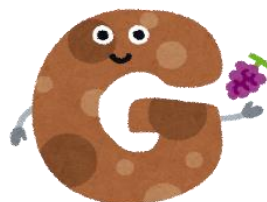
② ミドル次元: 教科書

国語科、社会科、体育科、道徳科、家庭科などの教科書にひそむジェンダー。男性視点のトピックやステレオタイプな登場人物。

③ ミクロ次元: 授業

・体育科における持久走の例・・・「男子は大回り1周2キロを4周目標に、女子は大3周と小回り1周500Mを目標に」(河野ほか2018)

・理科のグループ実験の事例・・・実験のハイライトの部分を行う男子、実験の準備や記録を熱心に行う女子(中澤智恵「学校は理科嫌いをつくっているか」村松泰子編『理科離れしているのは誰か』日本評論社、2004)



私たちの周囲で、ごく日常生活の中にジェンダー・バイアス(社会的・文化的な性差別や偏見)が潜んでいます。教師の固定的性別役割分担意識やジェンダー・バイアスが進路指導にも影響していたり、平等に見える学校の中にも明らかな不均衡があることに気づき、明らかにしていく作業が必要です。

2. ジェンダー平等教育の視点

(多賀太「性の多様性とジェンダー平等の視点に立った教師教育をめざして」全国私立大学教職過程協会第39回研究大会、第8分科会配布資料、2019)

<ジェンダー・バイアスの例>

学校の物理的環境

- ・男女別(男子が上)の名簿
- ・靴箱、ロッカー等の男女別(男子が先)の配置
- ・集会時、教室等での男女別整列
- ・名札や上履き等の性による色分け
- ・男女別制服

教職員自身の言動による

- ・教職員組織における性別役割分業
- ・男子には「くん」、女子には「さん」
- ・児童生徒の性別によってほめ方や叱り方の基準が異なる
- ・男女のステレオタイプに沿った進路指導
- ・一人ひとりの個性を見るより、「このクラスの子は・・・、男子は・・・」という見方にとらわれていないか

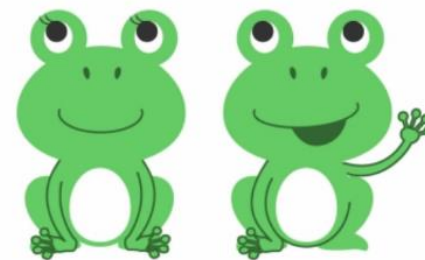
Check&Action

その区別は本当に必要だろうか？ 分けることに合理的な理由はあるのだろうか？
児童生徒に対して、性別による偏見をもって接していないか？

3. ジェンダー平等教育の実践

- 学校を、子どもたちが性別にかかわらず、その個性と潜在能力を伸ばしていける学習の場にしようとする試み
- 特定の時間に特定の知識を教えれば済む、ものではない。教育・学習活動のあらゆる場面、あらゆる時間に関わる
- 男女の役割の固定化につながる学校内の様々な慣習を解消していくためには、**まず教師が自らのもつジェンダー・バイアスに自覚的になることが必要**

ジェンダー・バイアスに気づくアンテナを持つことで、教師自身の生き方の選択肢も広がり、子どもも教師も生きやすい社会になるんだね！



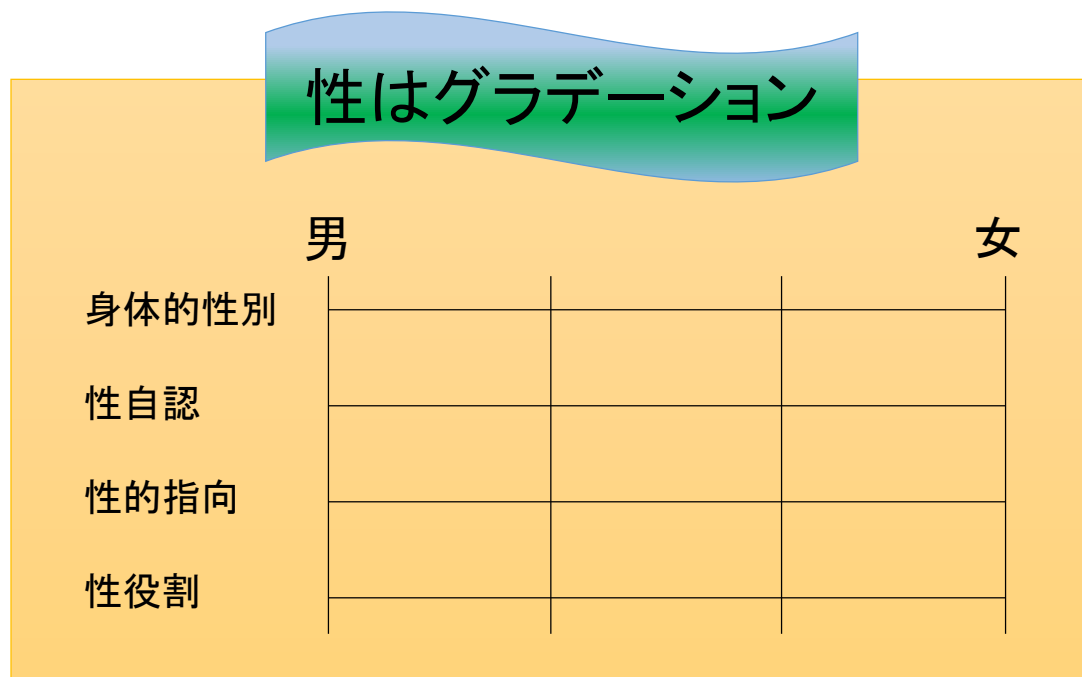
4. LGBT問題と教育現場

—学校における性的マイノリティへの関心の高まり—

LGBTとは・・・「性的マイノリティ」を4タイプで代表させた呼び方

- L: レズビアン(女性同性愛者)
 - G: ゲイ(男性同性愛者)
 - B: バイセクシュアル(両性愛者)
 - T: トランスジェンダー(性別越境者)
- **性的指向 (Sexual Orientation)** 魅力を感じる性別の方向性
- **性自認 (Gender Identity)** 自分自身の性別をどう思っているかに関する、ある程度持続的な自己意識(アイデンティティ)のこと

※他にもこの4類型に当てはまらない様々なタイプがある

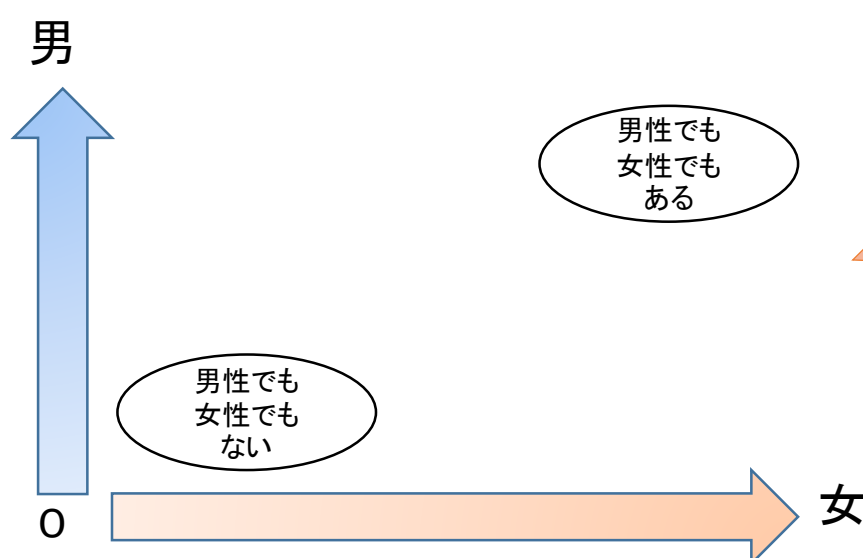


・「マイノリティ」の側だけに名づけを行い、マジョリティ側に対しては自らを何者であるか問うことを求めないネーミング

・LGBT=性的マイノリティではない(LGBTに含まれない性的マイノリティの人もある)

SOGI(ソギ/ソジ) **S**exual **O**rientation **G**ender **I**dentify

様々な性的指向のあり方と様々な性自認のあり方を包括する、少数派/多数派の区分を超えた概念



性は多様であり、自分も多様性の連続体の中にある

性的マイノリティの子どもの支援と男女平等教育は不可分

性的マイノリティの子どもの居場所は？ (石田,2019)

<困難を感じやすい5つの原因>

- ①学校空間が男女で分けられていること
- ②性的マイノリティの不在が前提となっていること
- ③子どもたちが正しい知識を得られにくいこと
- ④身近に相談できる人がいないこと
- ⑤ロールモデルが見えないこと



- ・多様なはずの性を「男」と「女」の2枠にあてはめようとすることで傷ついてしまう子どもがいる。
- ・学校での何気ない場面であっても性的マイノリティの子どもにとってはどうかという視点が必要。



今までに性的マイノリティの子どもと出会ったことがないんだけど...

児童生徒の中に「いない」のではなく「伝えにくい」→ 孤立・居場所がない

まとめ

固定的な性役割を解消し、性別にかかわらず多様な生き方・あり方を認めることは、

- 女性差別の解消
- 「男らしさ」に縛られた男性の生きづらさの解消
- 「性的マイノリティ」が直面する困難や差別の解消

のいずれにもつながる。

LGBTに関する悩みの相談機関

(石田,2019)

- よりそいホットライン: 性別や同性愛などの性的マイノリティについて相談できる
相談電話: 0120-279-338 ※ガイダンスのあと4番を選ぶ(24時間通話料無料)
※岩手・宮城・福島からは0120-279-226

サイト: <http://279338.jp/>

- NPO法人 QWRC: LGBTの当事者やその家族、友人を対象とした電話相談。
相談電話: 06-6585-0751(第1月曜19:30~22:30)
メール: info@qwrc.org サイト: <https://qwrc.jimdo.com>

- AGP電話相談: 同性愛者本人やその家族の悩み、心の問題に対応する「こころの相談」と、同性愛者の体の悩みや病気について相談できる「からだの相談」ダイアルがある。
相談電話: 050-5539-0246(「こころの相談」毎週火曜20:00~22:00)
サイト: <http://www.agp-online.jp>